

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>地域創生及び雇用促進に向けて、家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、地域の未来を拓く水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 進路について、就職では、17年連続内定率100%、進学では、国公立大学に26年連続の合格となった。 質の高い、継続的な授業が、時事通信社主催「教育奨励賞」優秀賞の受賞につながることに、2年連続全国大会3冠（食品技能コンテスト 総合優勝[2連覇]、生徒研究発表大会 最優秀賞[2連覇]、産業教育意見・体験発表会 最優秀賞）、GLOBE「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム」3期（1期2年）連続全国最高位相当「ポスター賞」、文部科学省等主催「パテントコンテスト」優秀賞、「京都大学アカデミックデイ2018」に府内高校生として唯一の出場等、全国規模での活躍が続いた。 資格取得では、マリンマイスター顕彰制度において、上位を独占するとともに、2年連続で全国最高点を収めた。 また、都府教育委員会教育長表彰の対象生徒が83.5%に達し、専門教育を推進する力となった。 食品経済コースが開発した鯖缶「京の鯖」が高い評価を受け、2年間の出荷が97,864缶となった。また、サメの製品化に成功し、京都の食文化を変えつつある。 部活動加入率が99%という際立つ水準を維持するとともに、レスリング部女子が世界大会（シニアの部）において金メダルを獲得した。世界・全国・近畿レベルの大会に出場した生徒は延べ135人（全校生徒比1.96人に1人）となった。 ボランティア活動に積極的に取り組み、105回、延べ5,302人が参加し、豊かな人間性を育むとともに、地域に貢献した。 前期選抜志願者倍率が1.56倍となり、教育活動が高い評価を受けた。 ホームページの充実によりアクセス数が115万件超となり、教育活動を広範囲に発信することができた。 テレビ放映及びラジオ放送20回、新聞等掲載132回と、年間を通じた取材や広報活動が生徒募集の力となった。 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）に3,169人（昨年度比+494人）、コラボ推進プログラムに244人（昨年度比+54人）の児童・生徒が参加し、キャリア教育の一環として水産・海洋に関する理解を深めた。 海洋プロジェクト（体系的な進路に係る学習及び指導）を通して組織的な指導を行い、今年度初めて、府立高校実力テストB問題を選択し、見事な成績を収めることができた。 年間を通して読書活動推進に取り組み、図書館の1人当たりの平均貸し出し数が12.3冊となり、豊かな感性を磨くとともに、確かな成長を遂げることができた。 進路が決定した3年生2学期に、85%の生徒が成績を伸ばすなど、学習に対して安定した姿勢を貫いた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 下宿管理者との連携強化、学習と読書を大切にす安定した下宿生活の確保 公共心の育成・伸長 個に応じた指導の推進と指導状況の共有 学習時間の確保等、好ましい週休日の生活実践 新しい授業の在り方の模索と「深い学び」へのアプローチ 学習に向かう姿勢の改善による学力形成 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 学力向上と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> 学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を促進する。 読書活動の時間確保を含め、机に向かう時間を大切にさせる。 基本的生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> 規範意識の徹底 生徒指導の考え方等を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 生活マナーの向上 日常の学校生活を通じて、その場面に応じて適切に行動できる生徒を育てる。 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> 人権教育・道徳教育の推進と人権意識の伸長 体系的な指導を整備し、生活の中に生かされる指導を行う。 自己有用感と主体性の育成 日常的な声かけに努め、できたことを確かめ合いながら自己有用感を育むとともに主体的な行動を促す。 さらなる高みを目指す専門教育の推進 <ol style="list-style-type: none"> 関連産業や外部機関との連携を推進するとともに、最先端の分野に触れさせ、レベルの高い専門教育を目指す。 生徒それぞれの「あこがれ」を大切に、想像力を育てる。 安心・安全の徹底 <ol style="list-style-type: none"> 相互のちがいを認め合い、共に学ぶ仲間づくりを進める。 常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認を怠らない。 生活全般において順法精神を培い、安全第一を徹底する。 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <ol style="list-style-type: none"> 専門学科の取組を中心とする積極的な広報に努め、本校の魅力をアピールする。 本校に対する理解と協力を深める新しい広報の在り方を研究する。 働き方改革の推進とワーク＆ライフバランスの調整 教職員それぞれが仕事と生活について見直し、望ましい時間配分を考え、教師としての資質向上と生活改善に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	京都府教育委員会の指定事業「スペシャルネットワーク京都」を活用し、自己有用感を高める専門教育を展開するとともに本校の魅力を積極的にアピールする。	各分掌及び教科等がPDCAサイクルを確立して質の高い教育活動を展開する環境を整える。				
		特色ある教育活動を効果的に発信できるようにする。				
	シティズンシップ教育を推進し、規範意識と人権感覚を備えた生徒の育成を図る。	心の教育の体系的な指導が組織的に行える体制を確立する。				
	働き方改革と教職員研修を推進し、教育職員としての資質を高め、総合的な教育力の向上を図る。	教職員がワークライフバランスを保ちつつ資質向上に取り組める環境づくりを推進する。				
総務企画部	中学3年生の生徒数減少の中、京都府内外を問わず、多くの小中学校、保護者、地域の方々に本校の魅力ある教育活動をさまざまな方法を用いて発信し、目的意識や学習意欲の高い生徒の出願増につなげる。	中学3年生対象の学校説明会参加者数の増大を図る。				
		ホームページの更新を充実させ、アクセス数増加に努める。				
		新たな発信方法を考え、地域に対する教育活動の発信を充実させる。				
	「人権」について生徒一人一人が考え、正しい判断を持ち行動できるように、生徒指導部や学年部と連携を図りながら個々の内面に響く指導を行う。	各学期に1回、道徳教育の取組を行う。				
		人権学習、講演会毎に人権だよりを発行する。				
	学期毎に人権アンケートを実施する。					
	生徒文化委員会の取組として実施、人権啓発活動を行う。					

教務部	分掌内の連携を強化し、働き方改革を意識した業務の効率化を図る。	教務部内の連携を強化し、共通認識をもって職務に当たることで互いを補完し、業務の明確化と役割分担の適正化を推進する。				
	新学習指導要領を考慮し、主体的・対話的で深い学びにつながる教育実践を推進する。	年2回の公開授業週間を新しい教育実践の場と位置づけ、各教科で新しい指導及び評価方法を研究し、次世代教育に対応する授業力の向上に努める。				
	学習姿勢や状況を点検し、その意義を日常から生徒に伝え、計画的・主体的に学習に向かわせることで学力向上を図る。	日々の巡回指導、定期考査前の学習時間調査等を継続するとともに、家庭学習（予習）の定着を推進する。				
	「一人でも多く、一冊でも多く」をスローガンに読書習慣を身に付けさせることで、本離れの現状を改善し、豊かな心や深い知識等を習得させる。	現状を分析しながら、全校生徒に対して読書に向かわせる取組（表彰制度等）を推進し、読書習慣を定着させる。				
生徒指導部	生徒と教職員の信頼関係の構築を基盤に人権意識と規範意識を高めるシティズンシップ教育を推進する。	学習意欲の向上と学習習慣の定着を図るため、授業中の巡回指導等を行い授業規律の確保に努め、授業等規律指導報告用紙を活用して指導対象生徒の減少を目指す。				
		全下宿生にアンケートを実施し、その結果を踏まえ個別面談等を行い下宿生活の安定に努める。				
進路指導部	3年間を見通した一貫性のある進路指導体制を構築する。	各種進路指導を「海洋プロジェクト」として展開し、効果的な進路指導を実現する。				
	段階的、計画的な進路指導を行うとともに、地域と連携して職業観を醸成し、個に応じた指導を充実させることにより主体的な進路実現を図る。	総合的な学習・探究の時間「キャリアチャレンジ」等を活用した進路学習を展開する。				
		地域の企業や事業所等と連携したキャリア教育を推進する。				
		個に応じた進路指導の充実に取り組み、希望進路の実現に向け主体的に取り組む意欲と態度を育成する。				
学年部を始め関係分掌と連携し、進路実現に向けての統一した指導を実践し、希望進路を実現させる。	進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。					

保健部	校内美化に対する意識を高め、学習環境づくりに努める。	保健委員会や環境美化委員会の活動を活性化させ、校内美化に努める。				
	清掃点検及び校内点検を行い、改善が必要な箇所は事務部と連携し、学校環境衛生の充実を図る。	清掃点検、校内点検を定期的に行う。				
事務部	事務力の向上を図り、業務能率の向上、技術力の向上を促進する。	個にとどまっていた技術力、ヒヤリハット対応事例、改善事例をペーパー化して情報共有し、学校事務の資産として引き継ぐことで、学校の業務力の向上を図る。				
	教職員間の連携を密にし、安心・安全な教育環境の整備を図るとともに、施設・設備の積極的な活用を促進する。	施設・設備について、安全点検を行い安心・安全な教育環境を維持し、事故の防止に努めるとともに、施設設備利用者の満足度を高める。				
	家庭への連絡等の情報発信を行い、家庭との連携の強化を目指す。	家庭（保護者）向けに援護制度や納入金等の諸案内について、案内文書とあわせてホームページを積極的に利用し、より円滑な周知を図る。				
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安全を徹底する。	乗船実習時及び実習前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。				
	関係部署と連携し、小中学校の体験航海の増大を図るとともに一般団体の体験航海も受け入れる。	関係部署と打合せをし、年間の体験航海数を増大させる。				
	航海船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究する。	実習担当教員と連携を深め、知識や技術の向上に努める。				
寮務部	保護者や地域の皆様の御理解、安心につながるよう、生活の様子等のホームページ発信を充実させる。	ホームページの発信を活発に行う。				
	奉仕活動やボランティア活動に積極的に参加し、自主性と貢献の精神を育む。	寮内で広報、清掃係等の班を作り、班毎により良い寮生活のための取組を考える。				

第1学年部	主体的に学ぶ意欲や態度を育むとともに、計画的に学習する習慣を身に付け、進路実現に向け建設的に取り組む力を養う。	教科横断的な取組や、地域と協働した取組を通じて、学ぶ意義や価値観を理解させ、主体的に学ぶ意欲を向上させる。				
		資格や検定等の取得を通じて、計画的に学習する習慣を身に付けさせる。				
	さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を育み、生徒一人一人の内面からの規範意識の向上を図る。	ボランティア活動等の課外活動に積極的に参加させ、自己有用感を高め、社会に積極的に参画する意欲と態度を養う。				
		学年集会やHR活動を通して、他者を認め、尊重する態度を育む機会を積極的に設ける。				
生徒一人一人の学習・生活面での課題を早期に把握し、円滑に課題解決が行える環境を整備する。	個々の生徒の学習・生活面での課題を早期に把握するとともに、進路実現に繋がる学科・コース選択を行う。					
第2学年部	希望進路の実現に向け、学力の向上と個に応じた多方面からの細やかな指導を心がける。	2学年末において、希望進路が決定している生徒を100%にする。				
		成績優秀者を30人以上にする。				
		保護者面談・保護者連絡を1人当たり3回以上行う。				
		学年団の生徒面談を1人当たり6回以上実施する。				

第3学年部	学力向上と希望進路の実現を通してキャリアアップを図る。	日常的な指導の積み重ねにより生徒の進路意識の向上を図り、他分掌等とも連携を深める。			
		本校ならではの資格、検定取得を推進してキャリアアップを図る。			
		考査前の学習時間が朝30分以上、1日平均120分以上の生徒割合を80%以上とする。			
		学年末の評価平均値を7.1以上にする。(昨年度7.0)			
		学年末の成績優秀生徒数を32人以上にする。(昨年度31人)			
		学年末における不認定科目数を0とする。			
	自律と自立を目標に、基本的生活習慣の定着と心の育成を図る。	授業等規律指導報告の件数を0とする。(昨年度10件)			
		毎時の頭髪服装指導件数を3年生生徒数の8%以内とする。			
		特別指導件数を受ける生徒の延べ人数を昨年度比で30%減少させる。(昨年度10件)			
		卒業式において、指導を受ける生徒をなくす。			
海洋科学科	日常の授業・実習を通して、思考力や表現力、自己有用感や主体性を育むことで、希望進路実現に向かって自ら歩む力を身に付けさせる。	科目「総合実習」及び「課題研究」、各種レポート作成においてルーブリックを作成し、評価基準を明確にする。			
		生徒の「あこがれ」の存在を意識した教育活動を実施する。			
		進路面談、面接練習を通して、きめ細かい進路指導を実施する。			
		第3学年において、希望進路を実現させる。			

航海船舶コース	<p>生徒・教職員には常に緊張感をもって実習に臨ませるとともに、必要な情報収集に努め、航海の安全を確保する。</p> <p>また、保護者案内や実習の様子等をタイムリーに発信することで、保護者の安心につなげる。</p>	<p>キャリアトライアルの都度、生徒アンケートを実施し、反省検討の材料とする。</p>				
		<p>GLOBE観測やキャリアトライアル、またはコースに関わる資格試験の結果について、できるだけ早い時期にホームページに掲載する。</p>				
	<p>知的財産に関する能力を育成する教育活動を積極的に導入する。</p>	<p>3年連続で指定を受けた「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に則して系統的に研究開発を推進し、積極的な事業参加を通して知財マインドを育成する。</p>				
	<p>専門性の高い資格・検定を取得・合格させ、関連の進路先で活躍できる人材を育成する。</p>	<p>三・四級海技士（航海）筆記試験合格、第二級海上特殊無線技士及び一・二級小型船舶操縦士の資格取得を充実させる。</p> <p><コース数値目標> 海技士三級3名・四級7名、二級海上特殊無線技士8名、小型船舶操縦士二級15名・一級7名</p>				
海洋技術コース	<p>マリンエンジニアに関わる専門性の高い教科指導等により、将来のスペシャリストを目指す。</p>	<p>国家試験潜水士合格率を高めるとともに、潜水技術検定1級の取得に努める。</p>				
	<p>校内外における連携強化により、特色ある実習製品のブランド価値向上とエコサイクルの確立を目指す。</p>	<p>ヒトデ・ウニ堆肥の連携販売量を増やし、販売を促進する。</p>				
	<p>企業見学や業務体験、講演等により生徒の専門性や進路意識の向上を図り、希望進路の実現を目指す。</p>	<p>コースの専門内容に関わる企業見学や現場見学、業務体験、講演等を生徒対象に実施し、コースに関わる進路指導へと繋げ、昨年度に迫る実績を残す。</p>				
	<p>学力向上を目指し、生徒の積極性や意欲を引き出すことができる教科指導力の向上を図る。</p>	<p>コース担当教員の専門研修や資格講習受講を通じて専門性を高めるとともに、授業力向上を図る。</p>				

栽培環境コース	多様化する生徒状況に対応しながら、専門的な授業や実習の学習成果を生徒たちに感じさせ、自己有用感を高めるとともに、希望進路の実現に向けた実力を身に付けさせる。	地域と協力連携し、主力生産物のホンモロコの収穫量を増加させる。				
		資格取得の成果による教育長表彰の対象生徒数を増加させる。				
	個別相談等を実施しながら適宜アドバイスをを行い、関連進路先を始めとした希望進路の実現を目指させる。	第1希望進路先への内定・合格率100%を目指す。				
	地域創生につながる教育活動を展開し、地域の方々や外部機関との連携を図りながら、コースとして発展的に研究活動や協働作業に取り組む。	外部機関との連携を充実させ、生徒の教育活動の深化を図る。				
食品経済コース	関係諸機関や他分掌との連携を推進し、落ち着いた学習環境を維持する。	各実習におけるレポート提出の添削を徹底する。				
		教員によるログノートの点検を励行する。				
	コース内での連携を十分に行い、チームとして希望進路実現を目指す。	コース会議を励行し、定期的に研修会を実施する。				
		一次内定率の向上を図る。				
	これまで指定を受けている事業を継続させるとともに、コンテスト等での入賞を目指す。	指定事業を活用し、研究活動を深化させる。				
		コンテスト等での入賞				
学校関係者評価委員会による評価						
次年度への改善の方向性						

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった